十島村教育委員会だより　令和５年６月号

さわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

【6月（水無月）1年で昼間が1番長い夏至の月！】

十島村教育長　木　戸　　浩

梅雨ではありますが，雲の上では太陽がさんさんと降り注ぎ，１年の中で昼間の時間が一番長い月でした。「水無月」とは，田んぼに水を注ぎ入れる頃であることから（水張月）と呼ばれるようになったということです。しかし，梅雨の雨は激しく，線状降水帯という時間雨量の激しい大雨もありました。地震も続き，地盤が緩んだ状態での雨は土砂崩れなどの災害が発生しないか案じているところです。幸いなことに現時点では大きな被害が発生したという情報が伝わってこないことに安堵しています。

○　小学校の集団宿泊学習と，中学校の職場体験学習を実施

台風の影響で当初予定していた日程を変更して，小学校の連合集団宿泊学習を６月７日(水)から10日(土)までの３泊４日で，鹿児島市の鹿児島市立少年自然の家で実施しました。一昨年までは中之島で実施していましたが，今年度から鹿児島市で実施することになりました。村内の５・６年生２０人が引率の先生方９人と行動を共にし，集団生活を送りました。自然の家では，プラホビー製作，租税教室やキャンドルの灯い，２日目に野外炊飯活動で協力してカレー作りをしました。
午後からはオリエンテーリングなどもグループごとに協力してやり遂げることができたようです。他の島の児童と友達になれたことが嬉しかったようです。

野外炊飯活動

中学生は，６月１１日(日)から15日(木)までの４泊５日で，18事業所で，職場体験学習を実施しました。島の中では経験できない職種を，中学校１年生から３年生までの５０人が体験しました。保育園や食料品関係，中川運輸や十島村役場を体験したグループもありました。

ファストフード店体験

最終日にミニ議会を開いていただき，３人が議員となり，村長さんに質問したり，仮の条例の制定を提案したりしました。本物の議員さん方も見学されていたので，緊張していましたが，堂々と自分の意見を述べることができました。上鹿する船の中では、フェリーとしま２の操舵室も特別に見学させていただきました。こういう経験を通して，将来に向けての目標となり，夢を実現するためにこれからも努力し続けていってくれることと思います。

ミニ議会にて村長答弁

○　義務教育学校の設置に向けて

６月議会において，議会の承認を得ましたが，十島村の学校を小中併設校から「義務教育学校」に変更していきたいと思います。詳しくは村政座談会等で説明させていただきたいと思います。義務教育学校になるメリットは中学校の先生が１人多くなることです。それにより，複数の教科を受け持っていた先生方の負担が減り，しかも小中学校の先生方が乗り入れ授業をする際に必要だった「兼務発令」という手続きが不要になります。中学校の専門教科の先生が，小学校の複式学級の授業をすることで，１部複式解消の授業ができたり，小学校の先生で中学校免許を持っていれば中学校の授業もできたりします。１番は児童生徒の学力向上に繋がるということです。

各島で先生が１人増えることで，人口増にも寄与することになります。他の市町村では，合併などによる遠距離通学や部活動の制限というようなデメリットが生じますが，もともと小中併設校なのでこのようなデメリットが生じません。島民の方々へしっかりと説明して進めていきたいと思います。御支援・御協力をよろしく願いいたします。

十島ファミリー劇場が始まりました

本年度最初のファミリー劇場が宝島会場で開催されました。新型コロナによる制限も緩和され，全ての島で実施の予定です。公演日が近くなりましたらお知らせします。多くの御来場をお願いします。

宝島会場

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和５年５月３０日　南日本新聞「若い目」掲載）

悪石島小四年　松下　蒼空

学校で年に一回タケノコとりをします。山に入って行くと、タケノコがたくさんありました。葉っぱもたくさん落ちていて、ふむとふわふわしていて楽しかったです。「ガサガサ、パッパッ」。葉っぱの音が耳元でひびいていました。しかいに入ったタケノコは、なにがあろうと、とりに行きます。本気を出しすぎたので、地表に出ているタケノコはすぐに取りつくしました。

でも、草や落ち葉をどけると、まだありました。タケノコをポキッとおると、草のようなにおいがしました。

お父さんが「ここにあるよ」と言いました。私は「うん」と言って、タケノコとかくれんぼをしているように、次々と見つけ出しました。

（令和５年６月１３日　南日本新聞「若い目」掲載）

大物釣り上げ　ふるえ止まらず

諏訪之瀬島中二年　森　恒太朗

僕は三月に山海留学生として、岐阜県から諏訪之瀬島にやってきた。母と弟二人、妹の計五人一緒だ。

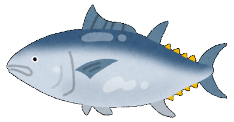
母が二月に「いろいろな体験をするために、十島村へ行こう」と言ったのだ。そうして島に着くと、「自然がいっぱいで、おもしろそうだ」と思った。

すぐに港へ釣りに行った。最初はなかなか釣れなかったけど、だんだんと釣れるようになった。ヨコスジダイを十匹釣ったこともあった。

五月に入り、漁船に乗せていただいて釣りに行った。その時、ルアーでかけたキハダマグロを釣り上げる体験をさせてもらった。引きが強くてリールを巻くのが大変だったが、絶対に釣ってやると思った。心臓がドキドキした。そんな大物を釣ったことはなかったので、釣り上げた時には心臓がバクバクした。キハダマグロは体長八十チセンくらいだった。

先日は元浦港で体長七十チセンのオニカマスを釣った。初めて自分で大物を釣ったので、手のふるえが止まらなかった。

僕はここ諏訪之瀬島で、自然にもっと親しみたい。自然との関わり方をたくさん学び、これからの生活をもっと豊かにしていきたい。



子供のうた

（五月一日　南日本新聞掲載）

さかなつり

そらはあおぞら
ふねにのって
さかなつり
つれた、つれた
さかながつれた

おもたかった
ぬるぬるしてた
おいしかった
おさかな

口之島小三年
立石　桔月

十島村で学ぶ

【諏訪之瀬島で生活してみて 】

諏訪之瀬島中３年　浅野　杏樹

私は、今年で諏訪之瀬島に来て三年目になりました。最初は見ず知らずの島で親から離れて生活するのは，とても怖くて不安でした。ですが，島民の方々や学校の友達，先生方から話しかけてもらい，意外と早く打ち解けることができました。

私は，ここに来るまで勉強も運動も得意ではありませんでした。しかし，ここでは嫌でも体を動かしたりプリントを解いたりするので，以前よりも学力，体力がついたと思います。ですから，諏訪之瀬島に来て本当に良かったなと思います。

諏訪之瀬島に来てから初めて体験したことは「道普請」という，島民全員で道路をきれいにする作業です。朝から夕方ぐらいまで行うので，体力のない私はすぐにへばってしまいます。ですが道普請が終わった後は，ジュースがもらえたりおさしみを食べることができたりします。島民の方々ともたくさんの話ができてとても楽しいです。

私は今年から生徒会の副会長になりました。人見知りで人の前で話すことが苦手な私にとって，副会長はできるかどうか不安で仕方がなかったです。私は思ったことを口に出すことが苦手で，それを言うまで少し時間がかかります。そして，いざ言うとなったときは，頭が真っ白になってしまいます。もしかしたら，失敗をたくさんしてしまい，足手まといになっているかもしれないのですが，思ったことを上手く口に出せるように心掛けています。

私は自分から人に話しかけることも苦手なのですが，諏訪之瀬島に来て，少しは自分から話しかけることができるようになったのではないかと思います。

あっという間の二年間でした。最高学年である三年目も頑張っていきたいです。また，卒業してからも辛いことや苦しいことがあっても，諏訪之瀬島で過ごした楽しい日々を思い出して乗り越えようと思います。

【中之島小・中学校からのメッセージ】

教諭　西村太希

中之島に赴任して３年になりました。今年から小学２年生になる息子が転入し，仕事と育児の両立に苦戦しながらも，親子二人暮らしを楽しんでいます。

私はこの３年間で「島でしかできないこと」を見つけることの楽しさ，大切さを強く感じるようになりました。

中之島には，トカラ列島に生息する生物の研究者や温泉ハンターなど，全国各地から多くの方々が来島されます。その出会いを通して，より深い知識を得ることができました。最近はバードリスニングについて学び，ランニングしながら数種の鳥の鳴声を判別できるようになりました。

また，中之島で仕事されている方々は，トカラブランドを誇りに，様々な取り組みに挑戦されています。私も教員として，子供たちが十島での学校生活を誇りにできるよう，様々なことに挑戦したいと思います。他島との交流，豊かな自然や人材を活用した授業，大規模校にも負けない学校行事の取り組み。その一つ一つが，子供たちの成長や思い出づくりにつながってくれることを願っています。

最後に，息子が多くの方々から温かく接してもらうことで，日々成長しており，「連れてきてよかった」と心から思います。一面に広がる蛍を見たり，友達と港を駆け回ったりした思い出は，一生心に残るだろうと思います。これからも感謝の心をもち，島での生活を楽しみたいです。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

私はこれまで５島めぐりました。各島の雰囲気を肌で感じられます。機会があれば中之島にも遊びに来てください。